



# TCU ダイバーシティ通信

共に学び、共に働き、共に築く

vol.13



## CONTENTS

- p.1 YC ランチ交流会の実施報告
- p.2 ダイバーシティ推進ワークショップの報告
- p.3 リケジョ進路選択応援プログラムの活動報告
- p.4 第11回 イクボス連載企画 柴田 随道先生
- p.5 「日本文化論」のお茶会見学
- p.6 コラム「窓」／KAIZEN レポート

※見出しをクリックすると該当ページに移動します



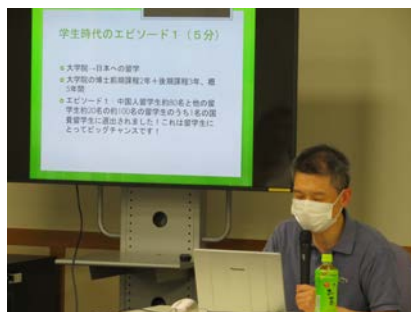
### 次世代育成 Pj.

### 横浜キャンパスで「ランチ交流会」を開催しました ～「研究者への道のり」 環境学部 環境創生学科 咸先生

6月30日(金)に横浜キャンパス1号館大会議室で「ランチ交流会」を開催しました。今回は、環境学部 環境創生学科の咸泳植(ハム ヨンシク)先生に「研究者への道のり」をテーマに講演していただきました。横浜キャンパスの対面式での開催は、コロナ後初となりました。当日は、環境創生学科と情報システム学科の3年生5名と、教職員6名に参加いただきました。

最初に咸先生より学生時代のエピソードや大学院進学のかっけ、さらに現在の研究についてお話いただきました。研究生活25年の中で感じたことは「研究には終わりはない」ということだそうです。ひとつの疑問が解決すると、また次の疑問…と探究心が尽きることはないとおっしゃっていました。また、研究者に必要なものは「モチベーション」「使命感」であると話されていました。最後に、ご用意いただいた資料をもとに、大学院の環境情報学専攻のカリキュラムや、卒業後のキャリアについて説明がありました。参加された学生の皆さんは、現役の研究者からご自身の体験に基づいた貴重なお話を聞く良い機会となりました。

ご講演いただきました咸先生をはじめ、ご協力いただきました横浜キャンパスの教職員の皆さま、ご参加いただいた学生の皆さん、貴重なお時間をありがとうございました。





## 意識改革 Pj.

### 「恒例のダイバーシティ推進ワークショップを開催しました」 関 良明 副学長

ダイバーシティ推進室主催で、2023年9月4日にダイバーシティ推進委員、ダイバーシティ推進室員を交えた約20名でワークショップを開催しました。今回のワークショップは、2022年度に行った「ダイバーシティ推進への理解度チェック」において、教職員の皆さまから新たに頂いたご意見を難易度とコストの2つの観点から分類し、5つに分けた参加者グループで、取り組むべき事項の実現に向けたプロセス（誰が何をどの様に進めるのか、必要なものは何か）を議論しました。

ダイバーシティ推進室は、学内の様々な事項についてアンケート調査を実施しています。その中の1つに2019年度から毎年実施している「ダイバーシティ推進度チェック」があります。この調査では推進室の活動への理解を拓けるだけでなく、今後の大学の様々な事柄について、推進室として取り組む課題について多数のご意見・ご提案を頂いております。そこで今回は、優先事項を議論した前回ワークショップを振り返り、新たに頂いたご意見を整理した上で、ワークショップ参加者で共有し、今後、課題解決のためにどのようなプロセスを進めていくかをディスカッションし、今後の活動のよりどころにすることを目的としました。

今回のワークショップでは、「すぐできる、費用かからない」事項として、A) 業務改善における情報共有、B) AIを活用した多言語対応、C) 育休中のリスクリング、D) 価値観の共有やガイドラインを設けた服装自由化のプロセスを参加者グループでディスカッションして発表しました。また、「すぐにはできないが検討を始めないといけない」事項として、A) 障がい学生対応における決定機関とコーディネーターの必要性、B) アフターコロナの就労規則としてのフレックス制、C) 育休における実状の記録とフレックス育休の提案、D) 働きやすい／働きたくなる環境のための障壁排除、E) 仕事を減らすための現場判断／議論の場を参加者グループでディスカッションして発表しました。例年通り教員組織・事務局の要職者も参加していますので、共有できた課題を今後の活動のよりどころとして、着実に進めていきたいと考えています。引き続き、皆さまのご理解とご支援をよろしくお願いいたします。





## 次世代育成 Pj.

### エボニック ジャパン株式会社共催「進路選択応援プログラム 2023」を開催しました

2023年10月17日（火）、恵泉女学園中学・高等学校にて「進路選択応援プログラム 2023」（エボニック ジャパン株式会社共催）を開催しました。

同イベントは、理系学部への進学を検討している女子中高生を対象に、理工系学部を卒業した女性研究者の職場やその活躍の様子を紹介することで自らの将来像を想像してもらい、進路選択の一助とすることを目的としています。今回は、昨年度に引き続き恵泉女学園中学・高等学校のご協力により、同校生徒7名に参加いただきました。

はじめに、本学ダイバーシティ推進室の伊東室長より理工学部機械工学科の紹介、理系のイメージや理系進学を選択するメリットについてお話がありました。

その後、エボニック ジャパン株式会社から会社説明があり、続いて同社による化学実験体験を行いました。エボニックの製品（シリカ、界面活性剤）を使った4つの実験を行い、女子中高生にとっても身近な化粧品や食品、文房具などにも応用される化学技術を体感することができました。また、生徒たちは身近な製品に使われているものでの新たな発見や気づきを得ることができ、大変興味を持ちながら行うことができました。

最後に、飼料添加剤の技術営業職、塗料添加剤の技術職、ヘルスケア製品の品質・薬事などに携わる同社女性社員5名から仕事紹介を行い、進路選択の理由やこれまでのキャリアについてのお話がありました。100カ国以上で事業を展開する世界有数のスペシャルティケミカルカンパニーであるエボニックだからこその様々な分野の仕事内容や経歴を聞くことができ、生徒たちも真剣に聞いていました。終了後は、進路の選択、仕事でのやりがいや楽しみ、行っている実験のアドバイスなど、多くの質問があり、大変盛り上がりの中、終了しました。

#### 【プレスリリース】

エボニック ジャパン株式会社 <https://corporate.evonik.jp/ja/-223344.html>

大学プレスセンター <https://www.u-presscenter.jp/article/post-51766.html>





## イクボス連載企画 第11回

 意識改革  
プロジェクト

多様な人材が活躍するためには、組織全体で意識改革を行い、サポートをしていくことが必要となってきます。

子育てに積極的に関わる男性を「イクメン」と呼ぶのに対し、産休や育休などを含んだ個人のキャリアと人生を尊重し、支援する上司（経営者・管理職、男女を問わない）のことを「イクボス」と言います。仕事と生活の両立が図りやすい環境の整備に努めるイクボスが増えれば、組織だけではなく、社会全体も変わっていくのではないのでしょうか。そこで今回は、理工学部 電気電子通信工学科 柴田 随道 教授より寄稿いただきました。



### 「時間の使い方」



今回、ワークバランスについて思い巡らすなかで、聖路加国際病院名誉院長だった日野原重明さんが、晩年小学校を訪問して行われたという「いのちの授業」のことを思い出しました。「命とは、人間が持っている時間のこと」「この命（時間）をどのように使うかが大事なのだよ」。100歳を越えて活動を続けられた日野原さんの言葉に重みを感じます。

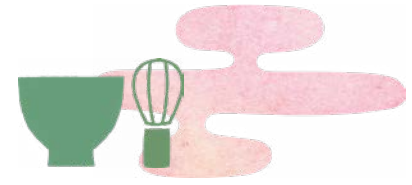
さて、私は10年ほど前まで企業の研究所に長く勤務していました。振り返ってみますと、若い頃は自分が専門とする技術を「ものづくり」や「ことづくり」に活かそうと1日中没頭していた時期もありました。その後、二人の子を育て、職場でもいろいろな立場の役職を経験するなかで、自分の限りある時間の使い方について考えるようになったと思います。最近では親の介護（母が90歳を迎え元気でおられます）の時間を見つけるのに苦慮していますが、年とともに人の果たすべき役割は移ろい、その人の時間の使い方も変化するように思います。この企画の第6回（ダイバーシティ通信 VOL.8）で住田暁弘学生支援部長が「人が生涯を通じて担う多様な役割」を「キャリア・レインボー」なるモデルを引用して紹介され、その役割間での葛藤の整理と優先順位付けの重要性を指摘されている記事を改めて拝読して、なるほどと思いました。

以前の職場で2~3か月に一度、様々な企業の経営トップをお招きして話を聞く会があり、私もそれに何度か出席しました。その中で数名の講師がご自身の時間の使い方について言及されていましたが、ある講演者が「私は、自分の時間を三等分して三分の一をお客様の対応の為に、三分の一を社員の為に、そして残りの三分の一を自分の為に使うことにしています」と言われたのが妙に納得できて印象に残りました。大企業の経営トップですから組織としてのビジョンを掲げ、その達成に気を配り、日々様々な案件に対処し、課題の整理に暇がないのではないかと思いましたが、そのような中でも自分の時間の使い方としてとてもシンプルな行動指針をもって自身が担う役割の優先順位やバランスをマネージしているというお話でした。勿論、けっして一日を三等分して全てをこなすということではなく、ある日を一つのことに費やしたならば他の日に別のことの埋め合わせをするようなこともあると思います。この話を聞いて、私も自分の役割を3つぐらいに分けてその時間配分を考える癖をつけようとしてきました。自分の時間の使い方に対するシンプルな理念と指針を持つことが自身のワークバランスを考えるうえでとても参考になると思いましたのでご紹介した次第です。





## 「日本文化論」のお茶会を見学しました

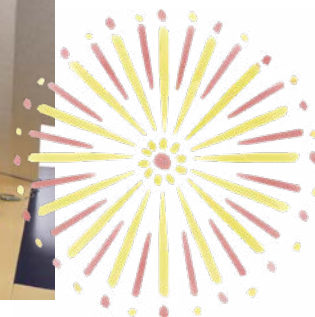
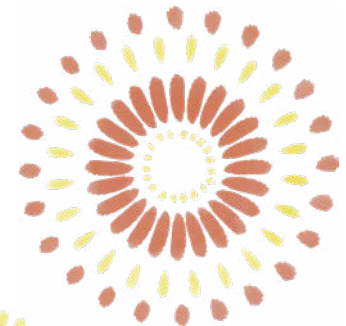
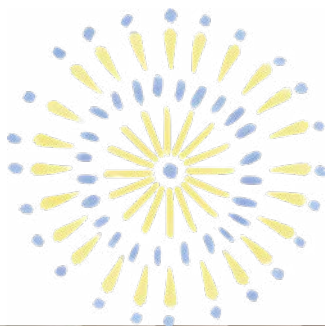


7月21日（金）、共通教育部 人文・社会科学系 岡山理香教授の「日本文化論」の最終日、武蔵庵（9号館3階）にて授業の集大成として「お茶会」が開かれました。ダイバーシティ推進室では、年末に留学生を招いてのお茶会と座談会を予定しています。そこで、岡山先生のご好意により、今回お茶会を見学させて頂く運びとなりました。

今回のテーマは「花火茶会 (Hanabi Tea Ceremony)」。茶室の床の間には季節の掛け軸が飾られ、涼しげな浴衣に身を包んだ受講生の皆さんが迎えて下さいました。はじめに、和やかな雰囲気の中で、学生が茶道の歴史、道具などについて英語で説明しました。続いて、岡山先生がひとりひとりにお茶をたてて下さいました。茶室には、凜とした空気が流れ、学生たちは正座をして、静かにお茶と和菓子を嗜みました。美しい所作のひとつひとつに意味があり、茶道の長い歴史に裏打ちされた文化の重みを感じました。

今回は、アメリカやタイからの交換留学生だけではなく、オンラインでウクライナからも留学生が参加されました。普段の授業では体験できない、日本文化や歴史を身近に感じる事が出来たのではないのでしょうか。

岡山先生、学生の皆さま、準備などでお忙しいところ、貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。





「窓」は不定期連載のコラム欄です。窓を開けて風通しを良くしたいという思いから「窓」と名付けました。ダイバーシティに対する思い、ダイバーシティに対する期待等、皆さまからのご投稿をお待ちしております。推進室ではダイバーシティ関連の書物や学外のフォーラム、他大学の取組みなど、幅広く情報収集しておりますので、これらの情報もこちらにてご紹介してまいります。



## 内閣府主催「第7回理工系女子応援ネットワーク会議」に参加して

10月25日にオンラインで開催されたミーティングには女子学生に理系進学を勧める活動を行っている企業、学会、教育機関、計98名が参加し、互いの活動を紹介した後、意見交換を行った。

冒頭の内閣府からのお話では、OECDによる科学リテラシー調査では、日本の女子学生の数学のレベルは世界3位、理科のレベルは2位であるにもかかわらず、自然科学分野や理工系への進学割合はOECD諸国中で最下位、しかも突出して低い割合であることが示された。

基調講演では、電気通信大学が2017年から実施している「匠ガールプロジェクト」の紹介があった。中高生の女子を対象に、夏休み期間中に大学の各研究室で大学院生のサポートのもと研究体験をしてもらうプロジェクトである。近年では、募集に対しキャンセル待ちが大勢発生する状況とのこと。気になる広報については、全国に3,000枚のチラシ配布、女子学生に母校にチラシを持ってもらう、入学実績がある高校にチラシ配布、大学HPから案内、SNS、そしてリコチャレHPからの案内とおおよそ考えつくすべての方法でアナウンスすることで集客に成功しているとのことだった。このあとに続くグループディスカッションでは、集客に苦戦しているイベントが多く、都市大もその例に漏れないか、そういった面でも大変参考になる講演であった。

その他、アマゾンウェブサービスジャパンおよびスリーエムからの事例紹介もあり、大変充実したミーティングであった。

(投稿者：ダイバーシティ推進室・伊東)



内閣府 男女共同参画局 理工チャレンジ (リコチャレ)

<https://www.gender.go.jp/c-challenge/index.html>





## 「目からウロコ！『みえるとかみえないとか』を読んで」

主人公は宇宙飛行士。いろんな星のいろんな特徴を持つ人々と出会い、それぞれのあたりまえ、それぞれの都合を知る旅の様子をユーモラスに紹介している絵本です。目が3つあるのがあたりまえの星の住人にとって、目が2つしかなくて、後ろを見ることができない地球人は「かわいそうな存在」になってしまいます。目の見えない人にとって自動販売機は買って見るまで何が出てくるかわからない機械だなんて私は考えたこともなかったのですが、皆様はいかがでしょう？



自分の周りのいろんな特徴を持つ人々に対する理解を深めるきっかけとなる大変良い絵本と思います。

是非、ダイバーシティ推進室に来て手に取ってみてください！

(投稿者：探求の友)



## KAIZENレポート

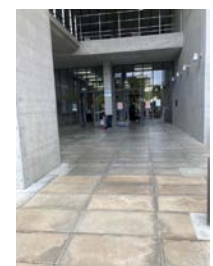
### ダイバーシティ環境の実現に向けた改善事例のご報告

当推進室では、「共に学び、共に働き、共に築く」をキーワードに、本学で学び働く全員が誰一人取り残されることなく、幸せに過ごすことのできるキャンパス環境の実現に向け、皆さまからいただいたご意見を、学内の関連部署や委員会にお伝えしています。今般、以下の改善が通知されましたので、ご報告いたします。

アンケート等で皆様から多くの意見が寄せられておりました、滑り易く危険だった世田谷キャンパス8号館（図書館）出入口および9号館（学生食堂）前の通路に、防止策として、特殊な液剤を用いてマイクロメートルオーダーの目には見えない穴を作り出し、水の移動を抑制する防滑工法を施しました。コーティングではないため、耐久力も抜群で5年間は持続するそうです。



8号館前



9号館前

### コラム「窓」へのご投稿はこちらから！

皆さまからのご投稿をお待ちしております。ぜひ下記リンクよりご投稿ください。

<https://forms.gle/NfRCLbn7WNR5eBg38>



### ご意見はこちらから！

ご意見窓口フォームを開設いたしました。ダイバーシティに関するご意見をお気軽にお寄せください。

<https://forms.gle/eUxx6XdtYQS3mKhCA>